

個別の学習スペース



☆物理的構造化をする時のポイント

- ・ 子どもの状態に応じて構造化を緩やかにしたり強めたりし、柔軟に変更・調整することが大切です。

プラス情報 



①

②

- 視覚から入る刺激(情報)を減らすことで、子どもが集中して学習に取り組みやすい環境を作ることができる。その一つの方法として、壁側に向けて個別の学習スペースを作っている。窓の外の景色が情報過多になってしまう場合は、右画像のようにカーテン等で隠す。(採光面の配慮が必要。)
- 自立課題ボックスを用いて、どのような内容にどれだけの量取り組んだら学習が終わるのかが一目で分かるように示している。

